

デマンド監視のデータ抽出

1、データの抽出をする前に・・・

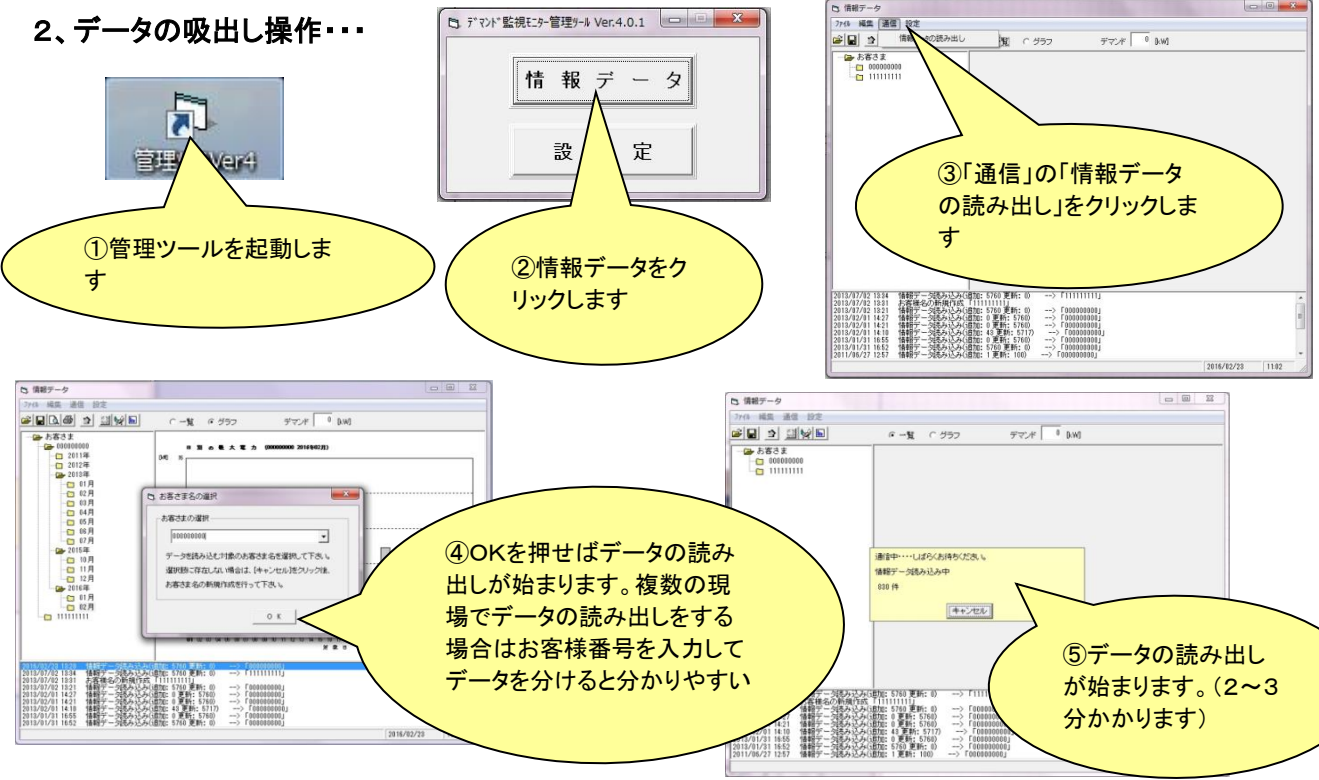
データは親機MDR-210Pに120日分保存されます。データを蓄積する場合は120日に1回PCで吸い出して保存してください。



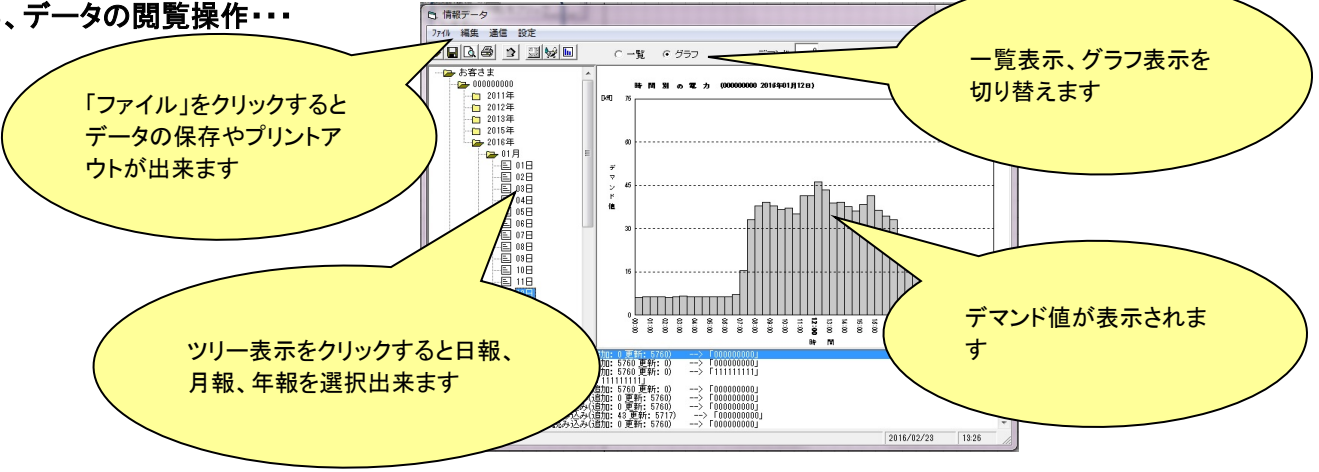
CDの中の「FTDI」と「Setup」フォルダの中にあるソフトをノートPCにインストールしてください

USBケーブルでデマンド監視とノートPCを接続します
(市販のA-Bコネクタケーブル)

2、データの抽出操作・・・



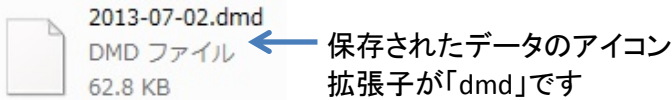
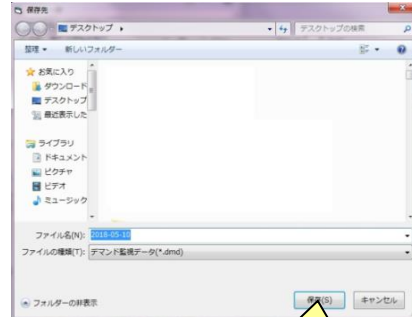
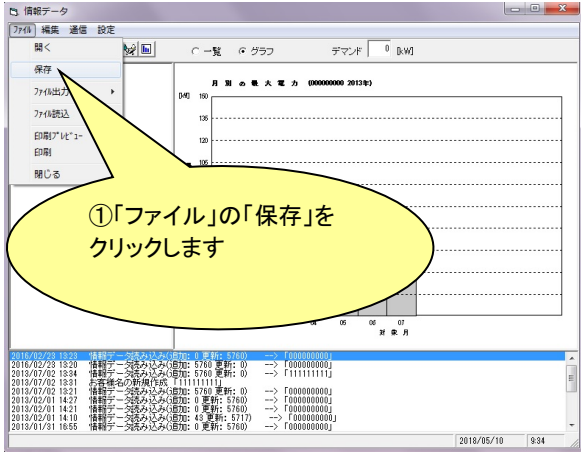
3、データの閲覧操作・・・



データ保存、読み込み、印刷

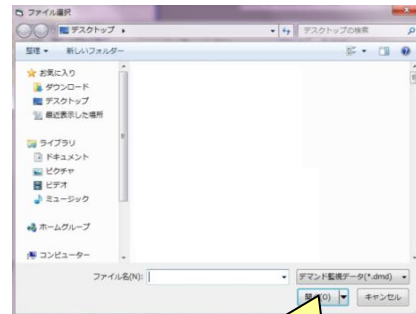
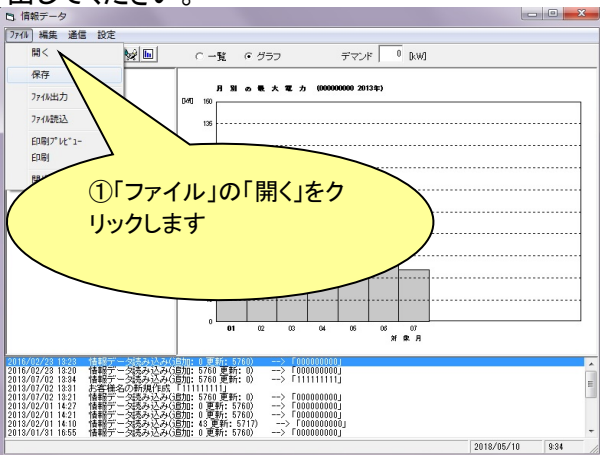
1、データの保存・・・

データは吸い出した後はPCにデータを保存してください。次回起動時は最後にデータ保存した時の状態が保持され、次にデータを吸い出した時は自動的に新しい日にちとデータが追加されます。バックアップのため定期的に保存してファイルもいくつかに分けるとベターです。

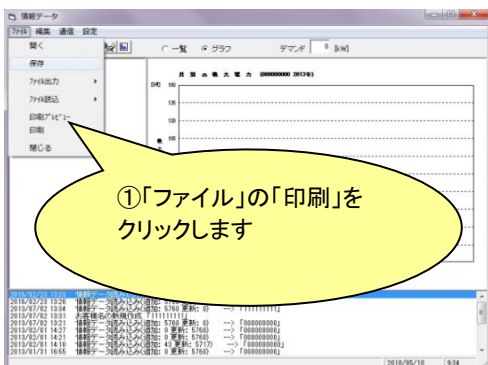


2、データの読み込み・・・

保存した.dmdのファイルを他のPCに移すと他でもデータが閲覧出来ます。「ファイル」の「開く」でデータを読み出してください。



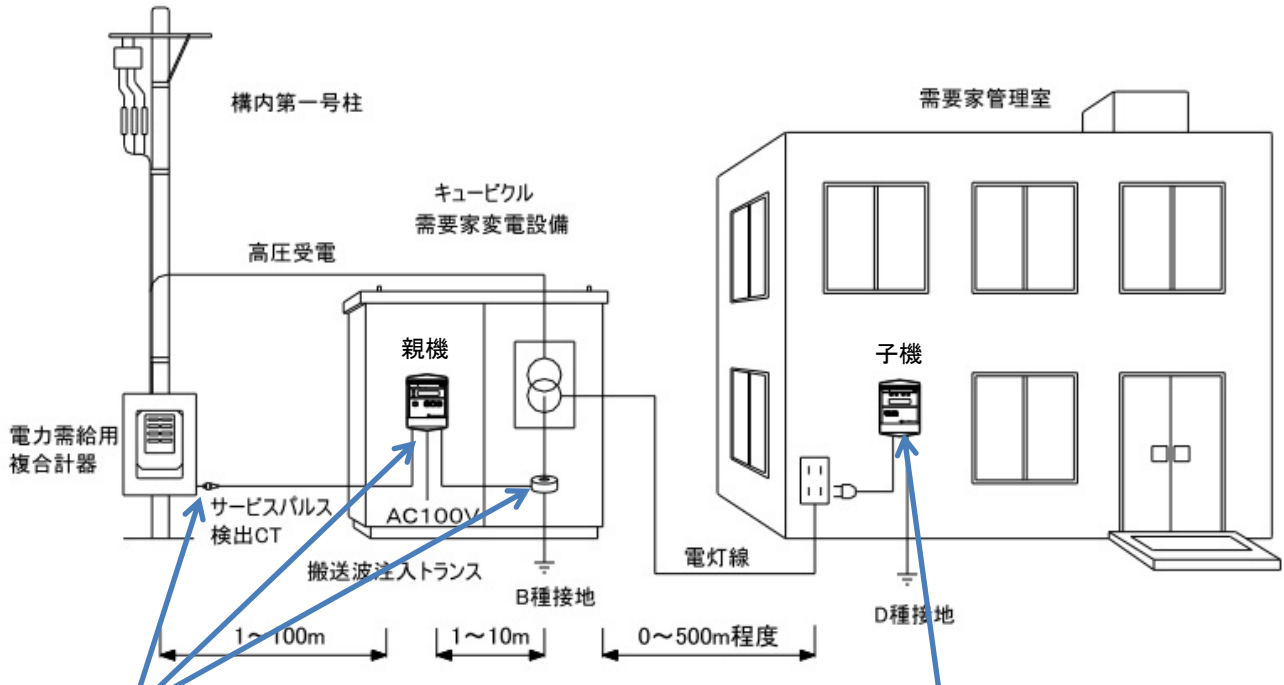
3、画面の印刷・・・グラフや一覧表示はプリンターで印刷出来ます。



デマンド監視の工事

全体図と必要な工事・・

全体的なシステム図と工事内容は下図になります。



親機側

- ①100V投入
- ②サービスパルス接続(電力会社への申請が必要)
- ③B種接地に搬送波注入トランス
- ④目標kwとCTヒを設定(※CTヒ・・・電力量計の口口/5Aの表示)

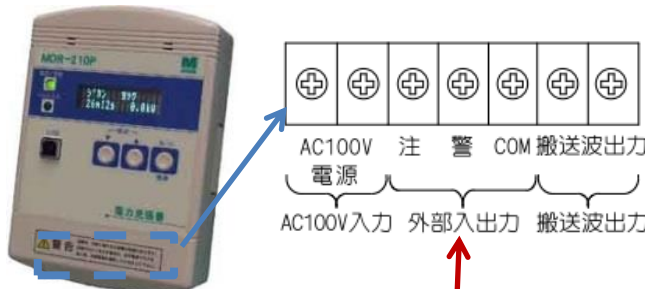
子機側

- ①100V投入
- ②アース接続
- ③アラーム音量の設定

- ・親機には電力量計の信号を供給させる必要があり、信号の取り出しは電力会社への申請が必要です。
- ・親機の裏側にはマグネットが付いてそのままキュービクルの扉などに取付けられます。
- ・子機は木ネジで固定するか付属スタンドに立てかけてください。
- ・通信する上で必要なため子機のアースは必ず接続してください。
- ・通信異常が発生した場合は正常に通信が来ていません。別紙のハンソウイジョウについてご参照ください。

使用する端子台・・

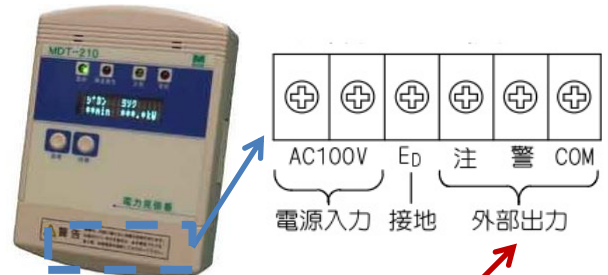
親機



※パルス検出CT用コネクタは内部基板上にあります。

※容量が小さいため接点は使用出来ません。
※オープンコレクター方式 DC30V 10mA

子機

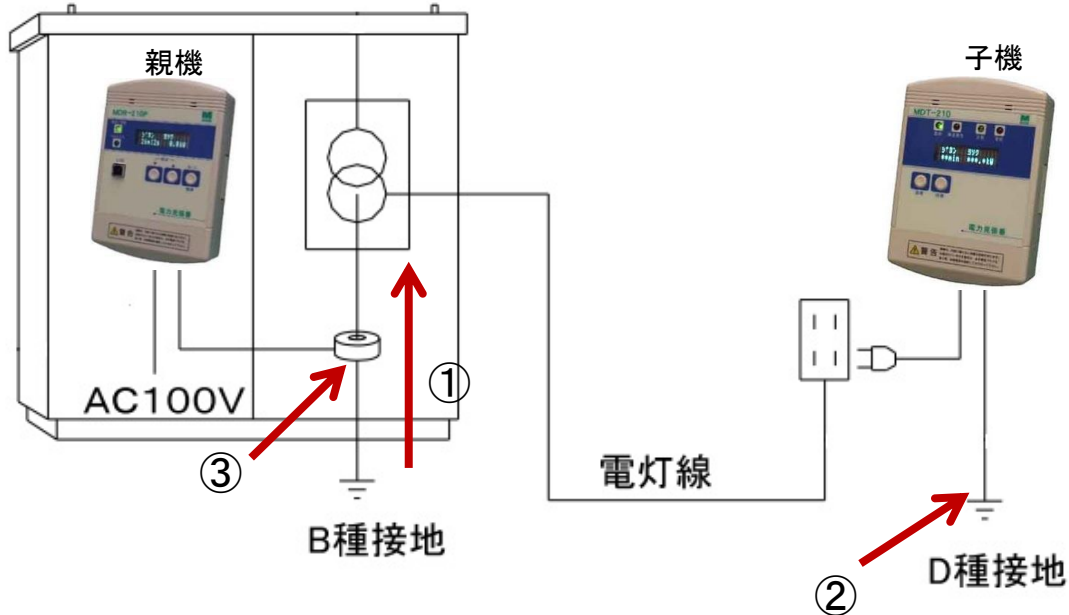


ランプやブザーを鳴らす場合はこの端子を使って下さい。

デマンド監視の使い方

「ハンソウハイジョウ」について…

親機と子機は通信していますが、何らかの原因で通信に異常が発生すると子機が「ハンソウイジョウ」の警報を出してお知らせします。



①2A以上の漏電

搬送波注入トランスがついたB種に2A以上の漏電が流れていると親機の保護回路が働き通信が停止します。

②D種接地の接触

通信はB種→コンセント→子機→D種→B種の経路で行うため、その経路に問題があるとうまくいきません。近く分電盤など他のアースを試してください。

③搬送波注入トランスの取付位置の間違い

搬送波注入トランスはB種接地線に取付けますが、子機が繋がったコンセントと同じ電灯トランスのB種に取付ける必要があります。

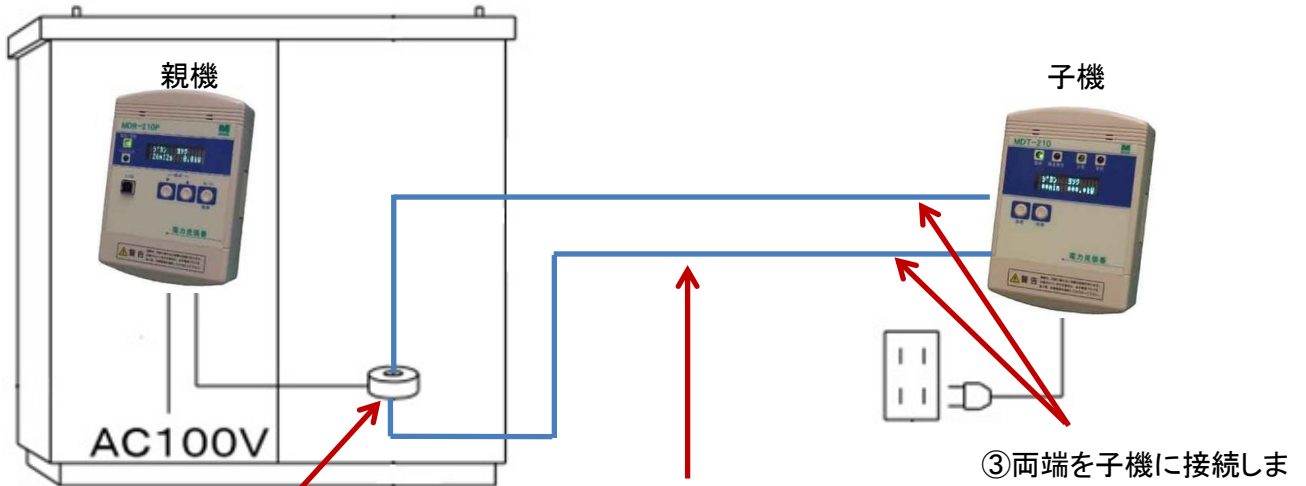
搬送異常ランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> アース接続が不完全な状態ですと通信異常が発生します。電源コードの接地線(緑線)が本器のFG端子に確実に接続されているか、また電源プラグ側の接地線もD種接地に接続されているかご確認下さい。 接地抵抗が高い場合には補助電極の使用が有効です。
レベルモニタ機能で搬送信号レベルが小さい	<ul style="list-style-type: none"> 検出器側の接地抵抗が高い(100Ω以上)と搬送レベルが低下します。100Ω以下の接地環境を確保して下さい。 検出器側の出力レベルが400mVに設定されているか確認して下さい。(この場合は放送設備等の他の機器に影響しないことを確認して下さい。) 漏電電流が発生していると接地相と接地間の電圧が上昇し、検出器の搬送レベルが低下します。漏電箇所がない事を確認して下さい。
誤発報する (デマンド検出器は発報していないのに警報器が発報する。)	<ul style="list-style-type: none"> 機器の稼働時刻と誤発報タイミングによりノイズを発生している機器を特定し、次の対策を行って下さい。 <ul style="list-style-type: none"> ●警報器の電源プラグをノイズ源から離れたコンセントに接続して下さい。 ●警報器のアース接続する場所を変えて下さい。 検出器の端子台「搬送、GND」間の交流電圧が約4Vrmsある事を確認して下さい。使用する電圧計は2000Hzまで計測できる物をご用意下さい。 検出器の搬送波注入トランスが電灯トランスの接地線に設置されている事を確認して下さい。(接続配線方法：検出器取扱説明書5頁参照)

デマンド監視の使い方

どうしても「ハンソウハイジョウ」が復旧しない場合・・・

ハンソウイジョウが復旧しない場合は子機まで配線を延ばす通信方法を試してください。搬送波注入トランスに線を通してその両端を子機まで引っ張って接続してください。

◆全体図

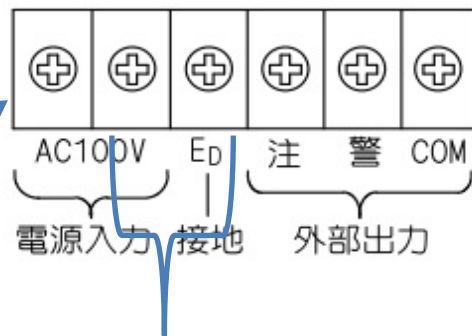


①搬送波注入トランスは埃や水がかからない所に置いてください。B種に付ける必要はありません。

②搬送波注入トランスに線を貫通させて子機まで引っ張ります。線材は何でも構いません。

③両端を子機に接続します

◆子機への接続の仕方



①端子台は装置の中にあります。フロントパネルを外してください。

②端子台への接続

- ・0VとED端子に接続します。
- ・100Vの端子には接続しないでください。
- ・外線のアースは外してください。
- ・接続する向きはどちらでもOKです